

3月のことば

学び④ ～数の理解

年度末。家庭、職場において整理・整頓が求められ「いつもきちんとしておけばよかった。」と後悔の念がつのります。しかし、考えてみると人間の生活・仕事の大半は物事を分類し関連づける事にあります。料理をする、配膳をする、洗濯物を片づける、たんすに納す、道具を揃える、発注受注する、伝票を分けて費目整理する、人事配置をする、職員評価をする、運営経営をする等…、いずれも物や事に対する“分類能力”が求められます。

(算数)

- ① 例えば、衣服の収納から算数の分類をする能力を育てる為に、たんすやフックの高さ、ラベルを考えて、子どもが自分でしまえる工夫をする。服の種類、色、素材等を一緒に考えるなど、片付けることは子どもに“整理する能力”“比べる能力”“数える能力”をつける。人は数を意識すると考えるようになる。
- ② 又、お料理、配膳、皿洗いの手伝いは、量、形状、サイズについて学ぶ。山盛り、すれすれいっぱい、半分～以上・以下、～より多い、少ない等の概念が分かり、算数能力をつける。

数を丸暗記で覚えても、数の意味(抽象性)が分からなければ、次第に算数への興味を失う。

これら生活所作から数への興味は、「ごっこ遊び」「微細運動遊び」「知育遊び」から育まれる。

(数学)

家庭での計画、運営・経営は、世の中との関連を時間軸に沿って、「もし～」「ならば」「かも～」という事を考えて、今行なうべき最も妥当な方策を選択することにある。社会ではほとんど物事を一旦抽象化して考えている。つまり、目の前にある現実から子どもを創造や抽象の世界に引き込み、空想と現実を行き来して物事を考える能力を養うことが大切。

そして、この抽象的思考能力は、「テーマを見つけて様々な事象を考える保育(プロジェクト保育)」の中に有り。

＊

＊

我が、高校時代。数学は何の役に立つのか?と先生に問うた事がある。この先生はすぐに答えてはくれなかった。しかし後日先生が出す試験問題は2問のみで、問題用紙とは別に、白紙の用紙が配られ「なぜそう考えたのかを書いて提出。」との事であった。私も様々な考えを書いて提出したのを覚えている。…35年の歳月が流れ、現在、保育園を運営するに当たり、「物事の可能性」「社会の方向性」「組織のとるべき最善策」等、あの時、先生が教えてくれた“存在”“確立”“ベクトル”“集合”“必要条件”“十分条件”等、数学的な思考が仕事や生活に必要であったと、今、気付かされている次第である。